

未曾有の台風被害に遭われた方々への支援金有難うございました。

台風19号で大きなダメージを受け、その後も局地的な豪雨によって甚大な被害を受けられた農家の皆様に、温かいご支援を頂き本当に有難うございました。支援金受付最終日の12月20日まで14日となりましたが、3,247,000円の支援金が寄せられました。本当に有難うございました。

物質的なご支援もさることながら、一人でも多くの有機農家の方々に経営を再建し、継続させてくださいというお気持ちが伝わり「折れそうになった気持ちが、少しずつ前向きになり、後片付けのみなさまのご支援の姿を見て、前向きになってきました。」という綿引さんの言葉に、過去の災害で同じような被害に遭遇した有機農家の方から「めげそうになる気持ちを励ましてくれたのが一番でした」という添え書きを頂きました。

締め切り前でしたが12月7日支援金をお届け致しました。何よりもご子息が有機農業を継続する決意とのことで、うれしい限りです。

相次いで開催された食の安全と子供たちの未来に関する講演会

2019年11月17日のかみのかわ有機農業推進フェアで学校給食100%有機米を実現したいすみ市の取り組みを市長の太田洋さんにご紹介頂いたのを皮切りに、多くの地域で子供たちの健康やその未来に関する講演会が開催され、多くの市民が参加し、真剣な食の未来への模索が始まってきました。栃木では内外の民間企業に種子生産をゆだねる危険性のある県条例が制定されたのを受け、種子の独占を狙う化学農薬企業のすすめる「ゲノム編集食品と農薬汚染—食べ物が劣化する日本」と題する安田節子氏の講演会が11月23日に開催され、遺伝子組み換え・ゲノム編集・ネオニコ・フィプロニル農薬規制・グリホサート禁止に舵を切る世界のなかで、真逆の流れのトップを走る日本の異常さにどう対抗するかが提案されました。それは有機農業自給圏の構築でした。12月24日にはダイオキシン環境ホルモン対策国民会議主催の「有害化学物質から子どもを守る国際市民セミナー」が中央大学駿河台記念館で開催されました

栃木では、11月30日にたった一人で立ち上げたイチゴ農家の方が印鑰智哉氏を招き、「とちぎの食の未来について」と題した講演会が開催されました。印鑰氏の膨大な新資料に圧倒され、食の安全をめぐる国際的な動きが緊迫した状況になってきていること。「種子の会とちぎ」の今後について、「要綱・規則」への意見反映だけでなく、シードバンク・有機種子の供給センターの立ち上げとその充実を図って欲しい。学校給食に有機農産物を提供できないかなどの意見が参加者から寄せられました。

12月2日にはゼン・ハニーカットさんの全国ツアーが憲政記念館ホールでスタートし400名以上の方々が参加して、「アメリカを変えたママに聞く食の未来」が討論されました。日本の種子を守る会の山田正彦氏を始め、黒田洋一郎・木村純子氏、川田龍平・堤未果氏他多くの国会議員や研究者・市民活動家・生協・農業者が一堂に会し、日本の食と農を変えようとの声を挙げてきました。3日名古屋、5日仙台、6日札幌、7日広島、11日大阪(尼崎)、12日沖縄。詳しくは <http://j.mp/zensan2019>

世田谷区長が学校給食に有機農産物提供を検討中

12月4日はお忙しい日程のなかで、山田正彦氏と川田龍平氏が呼びかけ人になって「世田谷

区で学校給食を実現する会」(仮称)の準備会が開催されました。世田谷区長はかの有名な保坂展人氏。世田谷区の小学生(1~6年生)は61校・1,153学級で、生徒数37,072名です。中学生は29校・340学級で生徒数10,681名です。自校方式とのことですから学校あたり607名分の給食になります。世田谷全区で37,072名×30週×4日=4,448,640食、お米1食あたり50g(コンビニおにぎり1個分)として222,432kg、中学生は10,681名×30週×4日=1,281,720食 お米1食あたり100gとして128,172kg 小中学校併せて約350tとなります。今の有機米の生産レベルは3.5~4.5t/haですから、これを全量有機米で賄うとなると100ha必要になります。1戸当たりの経営面積は5haになってきていますから20戸の専業農家で賄うことが可能です。

加えて、1haの水田に裏作として小麦を作付けし、大豆を1ha作付けすれば世田谷区の学校給食は国内産の有機農産物で供給できることとなります。

特に小麦製品については、小麦のグリホサート残留基準が大幅に緩和されたことで、輸入小麦のほとんどにグリホサートが検出される時代になりました。その長期摂取によって、セリック病や癌・自閉症などが増えることは遺伝子組み換えやプレハーベスト先進国のアメリカの主婦や医学者が報告している通りです。また発達障害や癌が有機農産物に切り替えることによって大幅に改善されることも報告されるようになってきました。

有機米給食は理想だが急には出来ないという方々には現在のわれわれの実践を紹介して頂きたいと思います。詳しくは1月から全国で開始される循環型有機農業の研修会に是非ご参加下さい。学校給食に提供される小麦が世田谷区を先頭に有機小麦に切り替えることになれば、日本の農業は大きく変わるようになります。

いすみ市のように市長と市民が有機米100%を望めばゼロからのスタートであっても地域の農家が4年間で50トンの有機米を生産し「いすみ市の奇跡」とまで言われる大発展を遂げられます。

お米だけでなく、いすみ市のブランド力が大きく評価されるようになったという大田市長の言葉を首長のみなさんが共有して頂けるよう願わずにはられません。(稲葉記)

2020年循環型有機農業全国研修会 栃木上三川1月19日、新潟1月25日、栃木大田原2月22日、一ノ関2月29日、滋賀草津3月8日、長野木島平3月14日です。(問い合わせ先 0285-53-1133)

発癌性のあるグリホサートの残留基準が大幅緩和
(発がん性・生殖異常・自閉症・糖尿病などが懸念)
厚労省, 2017-3-22)

収穫直前の乾燥促進や収穫作業の効率化のために除草剤ラウンドアップで作物を枯らすプレハーベストが大規模穀物商社傘下の農家で定着してきたこと。「TPP」に関連した二国間交渉で要望され対応したと考えられる

作物名	現 行	変更案	国際基準
小麦	5	30	30
大麦	20	30	30
ライ麦	0.2	30	30
そば	0.2	30	30
ひまわり種子	0.1	40	40(米)
ごま種子	0.2	40	40(米)
べにばな種子	0.1	40	40(米)
綿実	10	40	40(米)
なたね	10	40	30(米)

有機農業ニュースクリップ2017.03.31 No.785より一部引用

科学的状況証拠 その3

- ①グリホサートのプレハーベスト小麦(アメリカ・カナダの小麦)
- ②ラウンドアップフリーの遺伝子組み換え農産物(大豆・トウモロコシ)などによるセリアック病(絨毛組織の破壊・腸内細菌を介した自閉症などの発達障害や生殖異常)

小麦への収穫前のグリホサート散布量の増加とセリアック病

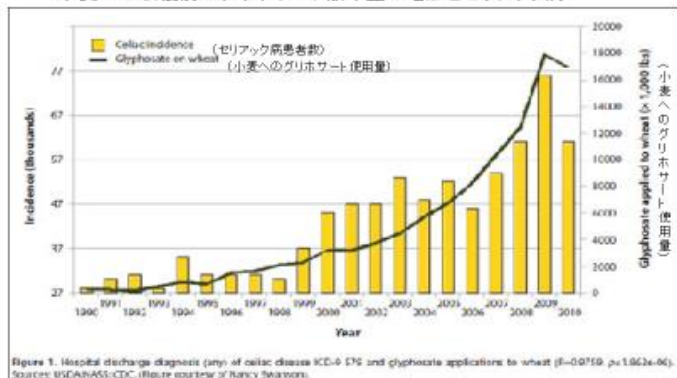


Figure 1. Isospatial discharge diagnosis (any of celiac disease ICD-9 E95 and glyphosate applications to wheat (E=00759, p=1.062e-06). Sources: USCA/NIH; CDC (figure courtesy of Nancy Bakstrom).